

学生が自ら考えて実習できるための実習計画表の活用 － 実習指導者との連携と実習指導の課題 －

The application of the training schedule for a student to be independent
－ The cooperation with the training leader and issue of the training instruction －

丸山 順子 赤沢 昌子 齋藤 真木
Junko MARUYAMA Masako AKAZAWA Maki SAITO

要旨

介護過程の展開を行う介護実習Ⅱにおいて、学生が自ら考え行動するための実習計画表の活用に関して、実習指導者の活用実態を明らかにする。また、実習計画表の活用における実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題を明らかにするために本研究に取り組んだ。その結果、実習計画表の活用実態は、実習指導者の半数であり、実習計画表の活用には、①実習指導者の実習指導体制と教員との連携、②学生の実習姿勢、③活用しやすい実習計画表の工夫等に課題があった。①に関して、実習指導者が、介護職員に周知・協力体制づくりをすれば、学生が実習計画表の活用を実感を得て、実習に満足感を得た。②に関して、学生に対し、実習計画表の「意味付け」と「活用した成果を実感する」ことを意識して関わる必要がある。③に関して、学生・実習指導者・教員が活用しやすい実習計画表の作成は、学生にとって、「活用した成果を実感する」ものとなり、実習指導者も直に学生の実習計画表に書き込み、学生・実習指導者・教員の3者に共通したものとなる。

【キーワード】 実習計画表 学生 実習指導者 教員 連携 実習プログラム

1. はじめに

介護福祉士養成教育の中で、介護実習Ⅱは、介護過程の展開を行う長期の実習である。本校では、一連の介護過程の展開を行うという実習課題を達成するために、学生が、実習前より、自ら考え行動するための指針となるよう、実習計画表を作成し、実習に臨んでいる。この実習計画表を実習前に書いて、実習中に活用するように指導をしてから約10年経過している。実習目標を明確にもって行動することが困難で、受け身的な実習をする学生が増加してきたため、自らが実習の到達目標に対して、計画を立てて、修正しながら実行ができるように実習計画表を導入した。

実習計画表を導入した効果として、①学生が、実習前に実習課題を達成するために実習全体の流れが把握できていた。②実習中においては、日々の行動目標や行動計画につながり、自ら考えて行動ができていた¹⁾。さらに、本校では、介護実習Ⅱとして、2回の長期実習があり、③1回目の実習では、実習の進度を意識して行動ができ、④2回目には、日々の指導者・巡回教員との指導時に活用し、その結果、利用者との関わりが良くなり、実習に充実感をもてるようになっていた²⁾。このように実習の進度を意識した行動ができ、利用者との関わりが良くなり、

実習に充実感をもてるとの効果が出るためには、実習指導者の関わりがとても重要であり今後の課題となった。さらに、⑤実習計画表を活用して、指導にあたっている実習指導者も増えてきている³⁾。しかし、実習指導者が、実際に実習計画表をどの様に捉え、実習指導者が実習を受け入れるために作成する実習プログラムに取り入れているかなど、実態における探求には至っていない。

そこで、実習指導者の実習計画表の活用実態と、学生が自ら行動できるための実習を行う実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題等見出すために今回取り組んだ。

2. 研究目的

実習指導者の実習計画表の活用の実態、及び、実習計画表の活用における実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題を明らかにする。

3. 研究方法

研究1 ；実習指導者に対して、実習計画表の活用実態の調査

1) 対象者及び方法；

(1) 対象者；本校の実習指導者連絡会に参加した実

習指導者約 55 名

- (2) 調査方法：実習指導者連絡会終了後に質問紙調査を行う。
- 2) 調査期間；平成 28 年 5 月 1 日～7 月 15 日
- 3) 質問内容；＜実習計画表の活用有無＞
＜実習前・中・後の活用内容＞
＜実習計画表活用の考え＞など
- 4) 分析方法；SPSS 22.0 for Windows を用いて集計を行い、各項目のクロス表を作成し、単変量解析で有意差 ($p < 0.05$) の検討を行う。

研究 2 ；実習計画表の活用における実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題を抽出するための調査

- 1) 対象者及び方法
 - (1) 実習指導者；
 - ①対象者；研究者 3 名の巡回担当施設の実習指導者 11 名
 - ②調査方法；調査期間に 2 回（実習初期と終期）の面接調査を行う。
 - (2) 学生 ；
 - ①対象者；研究者 3 名の巡回担当学生 19 名
 - ②調査方法；実習が終了して調査期間に面接調査を行う。
- 2) 調査期間；平成 28 年 11 月 10 日～12 月 22 日（介護総合実習；11 月 10 日～12 月 9 日のうち 23 日間）
- 3) 質問内容；
 - (1) 実習指導者；オリエンテーション時、実習中、実習終了時での実習計画表の使い方と学生指導内容
 - (2) 学生；実習計画表の使用内容、介護過程の進捗と実習の感想
- 4) 分析方法；聞き取った内容をカテゴリー化して検討する。

4. 倫理的配慮

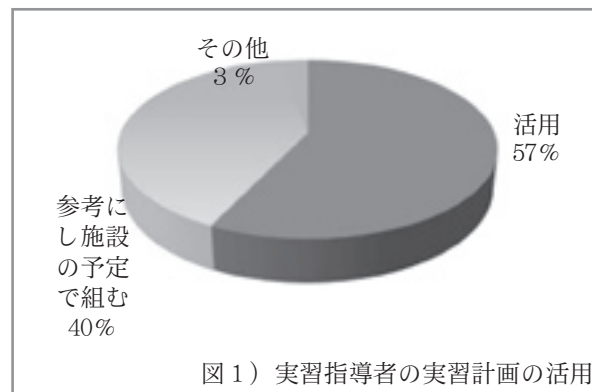
研究 1 に関しては、アンケート用紙に個人を特定できないこと、統計的に処理し本研究以外に使用しないこと、協力は個人の自由とすること等を説明し、提出をもって同意が得られたものとする。

研究 2 に関しては、聞き取り調査に関しては、個人を特定できないこと、統計的に処理し本研究以外に使用しないこと、協力は個人の自由とすること等を口頭と書面で示し、同意書を提出してもらう。

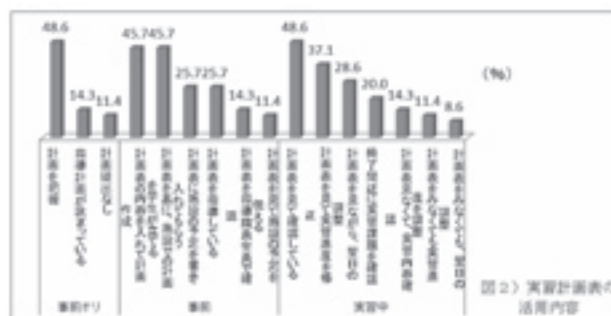
5. 結果

- 1) 実習指導者の実習計画表の活用による分析
 - (1) 実習指導者の実習計画表の活用
アンケートの回答率は、63.6%であった。

実習計画表の活用については、＜活用している 57%＞＜参考にして施設の予定で実習プログラムに入れ込む 40%＞であった（図 1）。



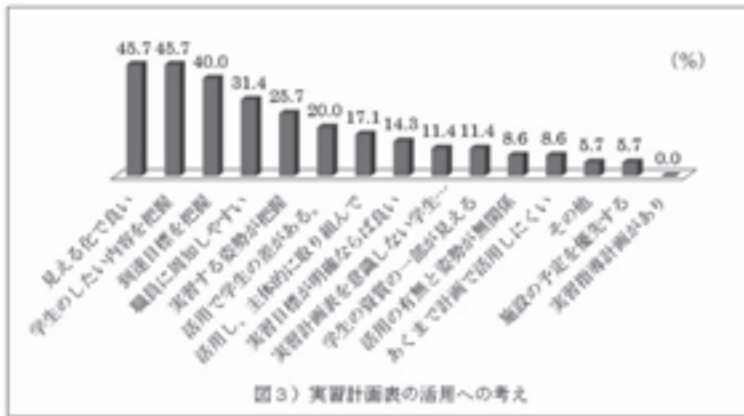
活用内容として、学生への事前のオリエンテーション時には、＜実習計画表を確認し把握している 48.6%＞とあり、事前に実習生受け入れ準備時には、多い順に＜学生の実習計画表の内容を入れて指導計画を立案する 45.7%＞＜実習計画表に施設の予定を書き入れ、書き方の指導を行っている 25.7%＞＜既に実習プログラムが決まっていた 14.3%＞＜指導する職員全員で実習計画表を確認 14.3%＞であった。また、実習中には、＜実習計画表の確認を行っている 48.6%＞＜実習計画表を見て実習進捗を修正している 37.1%＞＜実習計画表を見ながら翌日の調整をしている 28.6%＞＜実習終了間近に実習課題を確認している 20.0%＞等であった（図 2）。



- (2) 実習指導者の実習計画表への考え

実習指導者として、実習計画表の捉え方として、＜見える化でよい 45.7%＞＜学生のしたい内容がわかる 45.7%＞＜到達目標が把握できる 40.0%＞＜職員に周知しやすい 31.4%＞＜実習に対する姿勢が把握できる 25.7%＞＜学生の活用には差がある 20.0%＞であった。

一方、少数意見ではあるが、＜実習計画表を意識しない学生がいる 11.4%＞＜実習計画表と実習姿勢は無関係 8.6%＞＜あくまで計画で実習中活用しにくい 8.6%＞＜施設の予定を優先する 5.7%＞であった（図 3）。



< 0.01) >等に有意な関係が認められた。

②実習計画表の考えに関する分析

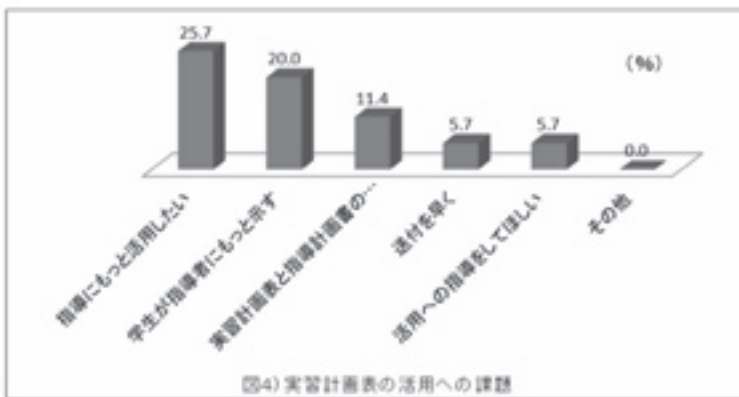
<見える化できて良い>と思っている実習指導者と、思っていない実習指導者に関して、<実習計画表を見て確認している (p < 0.05)><学生の到達目標を把握している (p < 0.05)><学生の資質の一部が見える (p < 0.05)>等に有意な関係が認められた。

<あくまで実習計画で、その後使いにくい>と思っている実習指導者と、そうでない実習指導者では、<実習計画表を基に、施設での計画を学生が立てる><実習計画表に施設の予定を書き入れてもらう>等に有意 (p<0.05) な関係が認められた。

<学生の実習姿勢を把握する>実習指導者に関して、しない実習指導者とは、<実習計画表を把握 (p < 0.05) ><以下のような関係が見られた。

(3) 実習計画表の活用への課題

実習計画表の活用への課題として、<実習指導にもっと活用したい 25.7%><学生が指導者にもっと示してほしい 20.0%><実習計画表と指導計画を合体できれば良い 11.4%><実習計画表の送付を早く行ってほしい 5.7%><学生に実習計画表の活用を指導してほしい 5.7%>であった図4)。



2) 実習指導の実例

実習指導者のアンケート調査の結果を受け、教員の学生への指導や実習施設との連携より課題を見出したので、2年生最後の長期実習である介護総合実習に以下の点を実施し、研究2として取り組んだ。

①実習計画表を実習申込書と一緒に実習1か月前に郵送し、実習指導者に把握していただく。(以前は、実習前オリエンテーションに学生が見せることになっていた)

②実習計画表の活用に関して、実習指導者と教員の連携により、学生の実習に対する変化をみる。

実習施設9施設に対して、11名の実習指導者と19名の学生の聞き取り調査を行った。実習指導者に関して、施設の内訳は、介護老人福祉施設5施設、介護老人保健施設4施設である。実習指導者は、男性7名、女性4名、実習指導者経験年数は、3年未満2名、3～5年3名、5～10年4名、10年以上2名であった。

(1) 実習指導者の実習計画表の活用

実習指導者に、「実習計画表の使い方」と「学生指導内容」として聞き取り調査をし、カテゴリー化した表1)。

9施設の聞き取り調査内容に関して、実習体制別に分け、KJ法を行った。

①「実習指導者が介護職として実習現場にいない」実習指導者からは、「施設計画を活用し、実習生に予定を提示する」「実習現場に任せる」「実習計画表

(4) 実習指導者の実習計画表の活用の分析

実習計画表の活用、実習計画表への考えの項目に関して、クロス集計を行い、有意差 (p < 0.05、p < 0.01) を求めた。

①実習計画表の活用の程度

<実習計画表を見て確認している>実習指導者は、<実習計画を見ていない>実習指導者に対して、<実習計画表を見て実習進捗を修正している (p < 0.05) ><実習終了間近に実習課題を確認している (p < 0.01) ><実習計画表を指導する職員全員で確認している (p < 0.05) ><施設の予定を優先しない (p < 0.05) ><実習する姿勢が把握できる (p < 0.01) >等に有意な関係が認められた。

<計画は学生の学習であり、施設の予定を優先する>実習指導者は、<学生の実習計画を行う (p < 0.01) >実習指導者に対して、<実習計画表を意識しない学生が多い (p < 0.05) ><実習計画表を基に、施設での計画を学生が立てる (p < 0.01) ><実習計画表に施設の予定を書き入れてもらう (p

は、学生の活用」「実習計画表は、職員に協力できる体制づくり」「実習計画表の工夫を希望」が挙げられた。

②「実習指導者が複数いて直接指導している」実習指導者では、「実習前より学生の希望がわかり、実習に備える」「学生が考えて行動できるように、ともに考え、促し、調整する」「実習内容を把握して、実習に取り組む」「実習終了前まで、内容の確認が必要」「介護過程の進捗については、課題」であった表1)。

(2) 実習指導者・教員・学生の実習例

実習において、学生には、「実習計画表の活用内容」、「介護過程の進捗」と「実習の感想」を実習指導者には、前述したとおり「実習計画表の使い方」と「学生指導内容」として聞き取り調査をした。

9施設の取り組みを4つに分類化し、その内容より、課題を抽出した表2)。分類化と課題の抽出は以下の通りである。

表1) 実習指導体制別、実習指導者の実習計画表を活用した実習指導の取り組み

実習指導体制	カテゴリー	サブカテゴリー
実習指導者が実践現場にいない A施設 B施設 D施設	施設の計画表を活用し、実習生に予定を表示する	施設の予定を提示 (2)
		実習計画表の確認はしていない (2)
	実践現場に任せる	施設の計画表の活用
		実践は、介護現場に任せる (2)
	実習計画表は、学生の活用	実習後の確認はできていない
		実習計画表で学生の自主性を実感 学生の進捗状況の確認している
実習計画表は、職員に協力できる体制づくり	現場職員に対する協力体制づくり	
	誰でも把握できるような工夫	
実習計画表の工夫を希望	実習計画表は、学生がもっと使いやすくして欲しい (2)	
	実習計画表の工夫が必要	
実習指導者が複数人いて直接指導している C施設 E施設 F施設 G施設 H施設 I施設	事前より、学生の希望がわかり、実習に備える	オリエンテーション時、計画表も用いて学生の希望を聞く (2)
		希望を聞いてから実習予定を調整する (4)
		事前の郵送は、事前に学生の希望がわかり良い
	学生が考えて行動できるように、ともに考え、促し、調整する。	学生に、何をいつまでに行うかを明確にさせる (4)
		学生とともに進捗を調整する (2)
		実習中、反省会等で、実習内容の調整・計画表の修正をする。
		施設の計画表はない
	実習内容を把握して、実習に取り組む	実習できる内容は、見通しが見つからないこともあるので、実習中に修正している (生活支援技術)
		実習計画表は、学生自身の実習内容の把握になって良い 自分が実習指導ができないときの担当職員の記録で把握
	実習終了前まで、内容の確認が必要	実習終了前に、実習内容の確認をしている
		実習終了時は、学生が見せないで行っていない。
	介護過程の進捗については課題	介護過程の実習進捗については、学生に調整や指導が必要

①学生の実習への姿勢が十分でなく、実習指導者、教員が調整しきれなかった事例

<学生の意欲と調整>学生の実習到達目標を達成するという意欲がない。そのため、実習計画表の活用の意義の認識がなかった。加えて、実習指導者が、直接学生を指導する現場にいなかったため、実習計画表を起点として指導者・学生・教員が関わらなかったため、学習目標を達成できなかった。

【課題】として、現代の学生気質を踏まえ、主体的に行った実習の体験をしてもらうように工夫することが必要になる。

例えば、実習指導者や教員が進捗確認と修正を重

ねる等により、達成感・満足感を得られるという体験をしてもらえるよう工夫することが必要になる。

<学生の体調不良と実習進捗>学生が体調不良で何日間か休み、遅れているため焦って混乱してしまった。実習指導者は、休んだ分、学生に働きかけ、調整もしてもらっている。実習指導者も教員も連携し、学生に合わせた実習計画の調整はできたと思っ

ていても、学生本人が、修正がうまくいかず混乱をしてしまった。
【課題】として、修正しやすい実習計画表をつくり、実習指導者や教員が修正に加わる等工夫が必要である。

表2) 実習指導者、教員の関わりと学生の実習計画表への取り組みの振り返り

実習指導体制	実習指導者の聞き取り	教員の関わり	学生の実習振り返り	評価と課題	
① 学生の実習への姿勢が十分でなく、実習指導者、教員が調整しきれなかった事例	<p>【A施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者が実践現場にいない <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録のみで学生指導をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設には、実習計画表がある。 ・一週間ごとAM PMの 課題 目標は入れる。 ・実習中 後に実習内容の確認はしてられない。(業務が忙しいため) ・はじめは実習計画表を確認するが、後はユニットの職員に任せてある。(現在 臨時職になっている。今後担当が変わるかもしれないので変化する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が実習計画表持ってこないため、指導できず。(巡回1回/週のため指導が入らない) ・実習計画表を持ってくと学生が言ったが、結局、一週間後には忘れていたため、それをもとに指導ができず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画表 書くのが面倒。どうせ直すんだから必要ない。いわれたことをやればいい。 ・計画通りにいかなかったから、充実感が持てない。(自分では書き直さなかった) ・こんなに苦労しなければいけない、やばいと思った。 	<p><学生の意欲と調整></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の実習到達目標を達成するという意欲がない ・実習における実習計画表の活用の意義の認識がない→実習到達目標をかなえるための自分の行動の意味を理解していない ・カンファレンス:指導者でない職員は学生をきちんと指導できない(学習目標を理解していない) ・実習計画表を起点として指導者・学生・教員が関わらなかったため、学習目標を達成できなかった感じがある <p>↓</p>
	<p>【B施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者が実践現場にいない <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践指導者と話し合っている様子はある 	<ul style="list-style-type: none"> ・初日2日目の予定あり。指導者名あり ・初日は計画書を見たが、その後の内容の確認はしない ・実習終了時本人が確認していた。 ・実習計画書:学生が使いやすければよい。 ・タイトル・内容と分けていただくと読みやすい。 ・計画表は、項目に 書いてある方が見やすい。 ・施設の予定は配っている。 ・各フロアーに 任せている 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画表の重要性を言われていないためか学生の意欲は、なし。 ・次どこまでやるのかその都度確認することとなるが、3人中いい1人のみしかやってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画をやってきた1人は、実習計画表があるから理解でき実施できた。2人はよく分からず。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護総合演習で教員の指導と、巡回教員の「微妙に言っていること違う」 	<p>【課題】現代の学生気質を踏まえ、主体的に行った実習の体験してもらうように工夫する。</p> <p><学生の体調不良と実習進度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調不良で休み、遅れている焦っている。 実習計画表の修正がうまくいかず混乱している ・実習指導者は、休んだ分、学生に働きかけ、調整もしてくれている。 <p>↓</p> <p>【課題】修正しやすい実習計画表の工夫が必要</p>
	<p>【C施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者が複数人いて直接指導 ・指導者が実習生一人に対して、そのフロアーで実施している。 ・交代勤務により、いつも指導しているとは限らない ・毎日、反省会がある。 ・指導した職員が、学生指導の記録を残している 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に計画表をもらったので、学生の希望がわかった ・計画表通りにいかなかったときに、一緒に調整した ・いつも、学生の実習指導をしているわけではないので、日々の指導の記録で把握している。 ・計画表は、学生自身が、実習進度の目安になって良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調を崩して、初期から休まざるを得なかった ・学生が、実習場所に慣れない、退学したい心境で実習している ・実習指導者とゆっくり、焦らずに展開していくことを調整 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かな指摘をせずに、学生の心のフォローしながら介護過程の展開を実習指導者と話し合いながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が実習計画表を確認 ・休んでしまい、修正ができず ・介護過程の進度が遅くなり、指導者から促された ・うまくいかないので、混乱した。 ・ようやく終わったが、計画表を見たくない。 ・計画表を確認するのも嫌になる。 	<p><実習指導者と教員との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生も実習指導者も、実習計画表を日々使用していなかった。 ・実習指導体制は、担当ユニットに任せる ・施設の計画表あり、一週間毎計画表作成している。学生に提示し、学生が、自分の計画の中に入れるようにしている。 <p>↓</p> <p>【課題】学生と実習指導者と教員で学生主体の実習づくりについて工夫を模索していく</p>

	実習指導体制	実習指導者の聞き取り	教員の関わり	学生の実習振り返り	評価と課題
② 学生も実習計画書を意識し、実習指導者、教員も調整ができた事例	【D施設】 ・実習指導者が実践現場にいない	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション;指導者が、まず計画書を確認し、コピーをとって、現場にわたす。 ・現場では、職員がいつでも実習計画書を見れる。 ・実習中;指導者が、計画書を見ながら、進捗状況について週1~2回確認している。 ・学生もそれに対し、今の状況を報告し、「いつまでに、何をしなければ」と話題にしている。 ・現場は、前日からその日の朝、学生が行動計画を口頭で伝え、実習をしてもらっている。 ・実習後;実習生が持っている計画書は、提出されない限り見ない。 ・口頭では、反省会の折に実習の達成度について、振り返りはしている。 ・反省会がないので、指導者が計画書(実習生が修正したもの)を広げて、話をする機会がない。(使いにくいということではないが) ・計画書があることは、とても良いと思う。また、最近の2年生は自主的に実習を進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスでは、学生から、その週の計画と進捗を話してくれたので、教員は確認するのみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定を職員に伝える ・伝えることで、施設側でも環境を整え実施 ・施設の前定を入れながら修正して活用 ・何回も見返すうちに頭の中で覚えてしまい、計画通りに行えた。 	<p><実習指導体制の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場の職員が、学生の計画を把握しやすくする。 ・実習指導者が進捗状況を確認をしている。 ・学生は、職員に伝えて行っている ・学生と実習指導者と教員とのカンファレンスに同席して、学生の実習内容の把握と調整をしてくれる ・学生の計画書を活用する意欲が高い → 学生と現場の職員のコミュニケーションがよくとれており、やりたいことをやらせていただいたので、満足度が高い。熱心な学生と、施設全体で、実習受け入れ態勢が整っているという相乗効果があった。
	【F施設】 ・実習指導者が複数人いて直接指導	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション時、計画書を見ていた。 ・しかし、実習当日なので、そこから実習に予定を入れる。 ・オリエンテーション;事前に送ってきたので、学生が望む実習内容がわかって良い。 ・予定に学生の計画を取り入れて立てやすい。 ・実習中;学生の計画を取り入れながら行った。 ・実習内容を確認し、それがかなう様に実習指導計画を立てる。 ・実習中;学生の計画を見て、確認しながら行った。 ・実習後;振り返りを行った。学生も活用したので、良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、カンファレンスで指導者と学生の実習内容を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が確認 ・指導者が計画を取り入れる ・カンファレンスで進み具合を確認 ・実習中;介護過程の進捗は、計画通りに進んだ。 ・介護過程の進捗は、計画通りに進んだ。 ・整理ができ、翌日の実習目標が立てられた。 ・生活支援技術については、途中、変更をしながら行った。 ・自分のやる気があれば進められる。 ・計画通りに行え、安心感がある 	<p>↓</p> <p>【課題】実習指導者が学生や現場職員の調整役になっている。良い例として、実習指導者に広めて欲しい</p>
③ 実習指導者が熱心に指導するが、学生によって行動の変容する学生としない学生がいた事例	【F施設】 ・実習指導者が複数人いて直接指導	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション;実習生に受け持ちを決めるために実習場所を選択してもらっている。 ・オリエンテーション;計画書は、特に介護過程の進捗を確認している。 ・実習中;毎日の反省会で、介護過程は、学生の計画を意識させながら、進み具合により修正(変更)するなどアドバイスしている。 ・学生に、いつまで何をするかを、反省会で明確にしている ・実習後;実習生が、計画書を見せないで、それを元に行っていない。 ・計画に入れられなかったこと;実習の進み具合によって、日々の反省会をする中で確認していく為、実習前から取り入れることはしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、カンファレンスで指導者と学生の実習内容を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション;実習の前定や流れを確認 ・実習中;介護過程、生活支援を行えているか確認 ・職員が計画に協力的だったので、計画に沿って実習できた ・介護過程は計画表を意識していたので余裕をもって進めることができた ・自分の目標(計画)を達成するために行動していく中で、新しい発見や、自分が成長(技術の上達など)していくことが感じられたので充実・満足感 	<p><実習指導者の指導と学生の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション時、介護過程の進捗を確認をしている ・生活支援については、実習内容により修正 ・毎日の反省会で確認し修正、学生の希望を取り入れる ・毎日の実習指導者に目標を書き評価してもらう ・学生にとって、計画を立てたことと実践できらにできた
	【G施設】 ・実習指導者が複数人いて直接指導	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション;実習生から介護過程の前定(いつまでに受け持ちを決めたい)などを聞き、それをもとに指導計画を立てた ・実習中;別紙の「実習目標を記入したものの提出を毎日求め、口頭でも担当者伝えてもらい、ほとんど実習生の希望通りに進めてもらって ・介護過程は、口頭でいつまでに何をしたいという計画を指導者が聞き、アドバイスしたり、計画の調整をしたりということを常に行った。 ・使いにくい理由;計画書があることは良いが、介護過程においては、生活課題を出すまでの期間が短すぎると思う。 ・(実習生に焦りが強く、情報収集が十分でないうちに一部の情報のみで「~したい」と思い込み、それに向かってプランを立てるための情報収集になってしまう。) ・特に、個別援助技術実習では、情報収集にもっと時間をかけ、実施は、1回でも良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回時、半分は指導者不在 ・カンファレンスで指導者と学生の実習内容を確認した。 ・実習内容の指導は、ほとんど指導者に任せられた。 ・教員は実習生の話したいことの聞き役と、実習生の声を、指導者に伝えた。⇒パイプ役が十分できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の方がしっかり見て下さり、サポートしてくださった。 ・施設の用紙に書いて進めた ・実習中に計画書の意義が具体的にわかり活用 ・実習中に、目標が明確になった ・情報不足が原因でケアプランまでいけなかった。 ・計画どおりに進まなかったもので、見なかった ・実習の進捗は、意識しなかった ・計画表の存在を忘れていた ・介護者主体の計画ができなかった ・達成できた日は充実感があつた。 ・もう終わりなので見直さなかった 	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のコミュニケーション・協力体制が強かった ・学生⇄指導者のコミュニケーションがよくとれた ・学生の声⇄教員⇄指導者⇄学生というコミュニケーション・連携がよくとれたことで、学生の満足度が非常に高かった。 <p>↓</p> <p>【課題】介護過程の進捗について、十分にできなければ進捗を遅らせるように指導や調整する</p>

実習指導体制	実習指導者の聞き取り	教員の関わり	学生の実習振り返り	評価と課題
④ 学生も実習指導者も努力しているが、現状と学生の希望とうまくいかなない事例	【H施設】 ・実習指導者が複数人いて直接指導 ↓ ・複数いて、カンファレンス別の人が来てても内容合致している	・介護過程は順調、しかし技術はコミュニケーション主となり、最後に教員が他の技術をしてもらうようお願いした。	・計画表を確認しながら行った。 ・計画は受け持ちとの関係作りを意識 → ・(反対に指導者がいないため、技術は進まなかった) ・予定に沿うよう頑張った。(合わせるように頑張った) ・予定に沿うよう頑張った。(ゆっくりした計画だったので、ゆっくりした実践になって ・計画の充実感はないが、やり切った感・達成感があった。	<実習施設の現状が学生の希望とあわない> ・指導者は、実習計画表を把握してくれている。現場に対して、調整をしてくれる ・介護過程は順調、しかし技術はコミュニケーション主となり、最後に教員が他の技術をしてもらうようお願いした。 (ケア時、技術を見学するだけに連れて歩いていただくのも勉強になるか) ・計画通り行っているが、指導者から介助の経験不足を指摘され、今頃言われてもと思った ・学生: 予定に沿うよう頑張った。(合わせるように頑張った) ・学生にとって、やり切った感や見通しをもってできたという達成感
	【I施設】 ・指導者が複数 ・一人は、生活指導員、一人は、直接指導	・実習計画表は、見てはいるが、学生に任せている ・ユニットの実習指導者とともに、学生の実習の相談者になっている。	・実習指導者とカンファレンスで同席できなくて、巡回に行った折に、学生の状況について話し、学生との橋渡しの連携は取れていた。 ・学生とも、実習計画表を見て、進捗を確認していった。 ↓ ・学生と実習指導者、教員との3者でカンファレンスを行い、今後の実習について話すことが大切と思う	・計画を立てたものは、自分で申し出て行えた。 ・指導者が計画を取り入れる ・介護過程の進捗は、一週間遅れてしまい、自分で修正し ・修正した書き方がわからない ・もう終わりなので見直さな ・計画を確認して予定通りだが、指導者から介助の経験不足を指摘され、今頃言われて ・間に合ったという安堵 ・解放感がある。 ・見通しをもってできた。

<実習指導者と教員との連携>として、施設には計画表があり、一週間毎など実習生の受け入れのための計画表を作成している。それを、学生に提示し、学生が、自分の計画の中に入れるようにしている。

【課題】 学生と実習指導者と教員で学生主体の実習づくりについて工夫を模索していく必要がある。

②学生も実習計画表を意識し、実習指導者、教員も調整ができた事例

<実習指導体制の工夫>として、実習指導者が、実習計画表を学生とともに活用していた。また、カンファレンス等で教員も共に進捗状況を確認して、現場の職員にも理解を得て、学生の希望に応じた実施を支援してもらっている。学生も、実習への満足感が高い。

【課題】 実習指導者が学生や現場職員の調整役になっている。良い例として、実習指導者連絡会等で、他の実習指導者に広めて欲しい。

③実習指導者が熱心に指導するが、学生によって行動の変容する学生としない学生がいた事例

<実習指導者の指導と学生の変化>として、実習指導者は、実習計画表の活用を通じて、学生に実習到達目標に導くような指導を展開してもらって

る。また、毎日カンファレンスや、介護過程の展開も丁寧に指導してもらっている。学生にとっても、「実習前にわからずに計画を立てたが、実習中に計画書の意義が具体的にわかり活用し、目標が明確になった」「自分の目標(計画)を達成するために行動していく中で、新しい発見や、自分が成長(技術の上達など)していくことが感じられたので充実・満足感あり」と実習中に成長が著しい学生が多かった。

ただ、介護過程への理解が低い学生では、現実の自分の進捗と実習計画表の修正がうまくいかなかったため、計画通りにいかずに焦ったままの実習となった。

【課題】 特に、介護過程の進め方について、学生の能力に応じて教員と実習指導者が連携をとり、実習計画表を修正しながらきめ細やかな指導を行う。

学生も実習指導者も努力しているが、現状と学生の希望とうまくいかなない事例

<実習施設の現状が学生の希望とあわない>では、実習指導者は、介護過程の展開における指導は丁寧にお願いした。学生も、「計画の充実感はないが、やり切った感・達成感があった」「見通しをもってできた」と満足感があった。しかし、現

場の現状で、生活支援技術の経験ができなかったり、学生は、計画通り行ったりするが、指導者から介助の経験不足を指摘されて、残念な気持ちも残った。

【課題】実習計画表にて、介護過程の進度への指導は良いが、生活支援技術の習得のしかたに課題がある。

＜自分で計画表を修正＞学生は、実習計画表の修正は、その都度行うが、学生より、修正がうまくできないと意見があった。

【課題】として、前述①の課題と同様に、計画表の修正や書き方指導を行う。

6. 考察

学生の実習計画表は、実習先で用意された実習プログラムに沿って行えばよいと学生が受け身的な実習を行うのでなく、実習到達目標に対して、自ら考え計画的に行動できるための一つのツールである。

この実習計画表には、学生が考え実習指導者に伝えて行動でき、利用者との関わりも深まり充実感ももてるということがわかっている^{1)~3)}。その効果をより高めるためには、実習指導者と教員の実習内容の調整や指導、連携などが要になる。

1) 実習指導者にとって、学生の実習計画表の活用実態

平成19年「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正に伴い、平成21年から介護福祉士養成カリキュラムの変更があった際、介護実習Ⅱの実習指導者においては、平成24年から介護福祉士実習指導者講習会の修了が義務化された⁵⁾。この義務化により、ほとんどの実習指導者は、施設独自の実習プログラムをつくり、様々な養成校より実習を受け入れるようになった。このような流れの中で、当短大の学生の実習計画表は導入され、画一化される実習施設独自の実習プログラムで学生を受け入れるのではなく、学生の考えや自発的な行動計画を聞いて、実習指導を行ってもらえるように実習指導者連絡会や実習巡回等で、理解と協力を求めた。

その結果、約半数の実習指導者が、事前オリエンテーション時に学生の実習計画表を確認し、その内容を考慮して、実習プログラムを立案し、実習中、学生の実習計画表の確認を行っていた。その確認内容は、ほぼ毎日学生の実習計画表を見て進捗を確認・修正・調整し、施設の予定のみを優先しないように職員に周知徹底を図っていた。

一方、約半数の実習指導者は、実習計画表を確認せず、学生に実習プログラムを渡し、そこに学生の行いたいことのみを書き入れるようにさせていた。

それは、実習計画表を意識しない学生が多いという理由もあった。しかし、実習プログラムは当日の実習担当者にとっては効率よく、学生のしたい内容のみがわかり、学生の到達目標・実習に対する姿勢がわかるものである。介護職員にとっての可視化になるという施設が全体の3~4割になっていた。従って、実習指導者にとって、学生の実習計画表は、学生が使うものという認識の実習指導者も多かったが、実習指導者や介護職員に対して、可視化できるものとして、広めていくことが必要である。

以上、実習指導者の実習計画表の活用の実態より、学生が実習到達目標を踏まえ、自ら考え行動した結果として達成感や充実感のある実習をするために、①実習指導者の実習指導体制と教員との連携、②学生の実習姿勢への指導、③活用しやすい実習計画表の工夫等に課題を見出すことができると考えた。

2) 実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題

(1) 実習施設の実習指導体制と連携

実習指導者の立場は、直接学生に指導している介護現場にいるか、いないかに大別でき、両者の実習指導には特徴があった。介護現場で直接指導している実習指導者は、学生の希望がわかり、実習に備え、実習内容を把握して、学生が考えて行動できるように、ともに考え、促し、調整していた。一方、介護現場にいない実習指導者の場合、学生の実習計画表は、学生が活用するものとし、施設の実習プログラムを活用し、実習生に予定を表示し、実践現場に任せていた。そして、当短大に実習計画表の工夫を希望していた。しかし、中には、学生の実習計画表を介護現場の職員に周知し、学生が職員に伝えて実施できる体制作りをして、相談・調整役をしている実習指導者もあった。

学生の実習計画表を活用している実習指導者は、巡回指導の教員とも連絡調整ができていた。

実習指導者が、学生の立てた計画内容を実現に向けてサポートすることにより、学生の実習後の満足度が高かった。また、実習受け入れ態勢が施設全体に行き渡っている施設で、熱心に取り組める学生が実習した場合、相乗効果で、学生と施設双方に非常に高い満足感が残った。

畠山ら⁶⁾が指摘する「実習の流れに重きが置かれた実習方法が多く、学生の目的に合わせた実習が難しい」、余田⁷⁾も「実習指導者にとって、実習行動計画書に基づいて学生の進捗状況を評価するのは有効であるが、施設の『介護業務優先』の場合、困難性が指摘された」とある。確かに、実習指導者が介護現場にいない場合、学生の実習計画を介護職員

への周知や卒業生等が個々に現場で協力しない限り、学生が考え行動する内容の実習ができないことが多い。

しかし、中島⁸⁾が、「教員も指導者側の学生一人に実習課題を投げかけて一方的に背負わせてしまうのではなく、一緒になって学生の挑戦を支援し、解決方法を模索していけるような態勢を整えることも必要」ということから言えるように、学生が考え行動して達成感や充実感のある実習をするために、教員が実習指導者に理解を求めていく必要がある。さらに、実習施設連絡会等で学生の実習計画表の活用など、工夫をしている実習指導者より、実習指導内容を提示してもらい、情報交換を行い、実習指導者と、教員と共に模索することが必要である。

(2) 学生の実習姿勢への指導

①実習計画表の「意味付け」と「活用した成果を実感する」

充実した実習を行うためには、実習の主役である学生のモチベーションが、何よりも大切である。そのモチベーションを強化するのが、「意味付け」と「活用した成果を実感する」であると考えられる。

「意味付け」は、主に、事前学習時に行う。実習計画表が、事前学習として、学生の未知なる実習に対して、実習到達目標を自分の行動目標として具体的に言語化、スケジュール化をすることで実習全体が把握できる。余田⁹⁾も「実習行動計画書は、学生が自分の実習への関心を目標にして明確化し主体性をもって実習に臨むための媒介として有効である」と述べ、実習への姿勢を形成することに効果的である。

「活用した成果を実感する」は、事前学習したことが実際に使えたという実感がもてたということである。今回の分類化した「学生の実習への姿勢が十分でなく、実習指導者、教員が調整しきれなかった事例」での学生は、「書くのが面倒」、「言われたことをやればよい」「計画通りにいかなかったから充実感が持てない」という気持ちでいたために、「意味付け」「活用した成果を実感する」ができなかった事例であった。

一方、「実習指導者が熱心に指導するが、学生によって行動の変容する学生としない学生がいた事例」では、実習指導者が、実習計画表を活用して、学生が「活用した成果を実感する」ことにより、「目標が具体的になった」「自分が成長していくことが感じられた」と変容していった。一方では、実習計画表を持参してこない、うまく修正できなかったために、活用した成果を実感できなかった学生もいた。この事例では、良いことに、実習計画表の活用を媒

介とし、学生と実習指導者または教員と話し合いができていた。実習指導者は、学生の計画を調整し、肯定的に支援をしていた。学生がそれを理解して、考えて行動することができる学生は、学生の実習への満足度は高かった。しかし、指導を受けても、考えて行動できない学生の場合には、簡単に行動の変容は望めなかった。

上記より、教員の事前学習への指導、実習指導者の実習計画表の活用への課題が抽出された。学生と実習指導者と教員で学生主体の実習づくりについて工夫を模索していく必要がある。

②実習内容を充実するための実習計画表の工夫

実習計画表を立てて、実習に臨んでも、自分の実施したい内容がかなわないこともある。

「学生も実習指導者も努力しているが、現状と学生の希望とうまくいかない事例」では、実習指導者も学生も実習計画表を活用していた。しかし、学生が望んでも経験できないことや学生が多くの体験を望まないが、実習指導者からみれば体験が少ないといったケースがあった。学生、実習指導者、教員が話し合い、実習計画表を修正し、実習終了前に残した課題があるかを確認しながら行うことが大切である。

(3) 活用しやすい実習計画表の工夫

実習指導者の活用実態から、事前オリエンテーションに学生が実習計画表を持参して見せない場合があることがわかった。そこで、研究2の実習では、あらかじめ実習計画表を郵送したため、事前オリエンテーションでは、実習計画表が実習指導者の手元にあるという状態で臨んだ。実習指導者には、実習プログラムに反映し、学生の把握に効果があった。

実習指導者より、実習計画表の使いやすき改善を求められた。また、長期間休んだ学生からは、自分の進度を調整するのが難しく、混乱や不安をもたらしていた。学生と実習指導者、教員による使いやすい実習計画表への作成が、より学生、実習指導者、教員が共通に使えるツールとしていくためにも有効となる。使いやすい実習計画表へと工夫することで、学生にとって、「活用した成果を実感する」ものとなり、実習指導者にとっても実習プログラムとして新たに用意することなく、学生の実習計画表に書き込むことができる。そして、実習中に、学生と実習指導者と教員間で共通のツールとして、修正していくことが可能となっていく。これが、実習指導者と教員の連携による真の意味での実習計画表の活用である。学生が主体となり、自ら考え行動できる実習が実現できると考える。

7. 結論

実習指導者の実習計画表の活用実態と実習指導者と教員の連携、教員の実習指導の内容に対する課題は、以下のように明らかになった。

- (1) 実習計画表の活用実態は、実習指導者の半数であり、実習計画表の活用には①実習指導者の実習指導体制と教員との連携、②学生の実習姿勢、③活用しやすい実習計画表の工夫等に課題があった。
- (2) 直接指導をしている実習指導者は、実習計画表の活用がしやすい。実習現場にいない実習指導者も、介護職員に周知・協力体制づくりをすれば、学生が実習計画表の活用に実感を得て、実習に満足感を得る。
- (3) 実習計画表の活用について、学生が考え行動して達成感や充実感のある実習をするために、教員が、実習指導者に理解を求めていくことも必要な場合がある。
- (4) 学生に対し、実習計画表の「意味付け」と「活用した成果を実感する」ことを意識して関わることによって、自分で考えて行動できてくる。
- (5) 学生・実習指導者・教員が使いやすい実習計画表は、学生にとって、「活用した成果を実感する」ものとなり、実習指導者も直に学生の実習計画表に書き込み、学生・実習指導者・教員の3者に共通したものとなる。

おわりに

介護実習は、介護福祉士養成カリキュラムの4分の1の時間もあり、学生の学びを深め、大きく成長する重要な科目である。それだけに、これからも日頃行っていることを検証し、学生の充実した実習を行うための体制作り、指導内容等、研鑽していきたい。

ご協力いただいた、職員の皆様、学生の皆様に感謝申し上げます。

- 1) 尾台安子他：介護過程における実習課題の達成度と実習の充実感との関係 松本短期大学紀要第23号 21-29 2014
- 2) 丸山順子他：介護実習Ⅱにおける実習計画表の活用の検討 - 個別援助技術実習と介護総合実習との比較 - 松本短期大学紀要第25号 61-68 2016
- 3) 丸山順子他：学生の主体性を引き出すための実習計画書の活用 - 実習計画書の活用と実習指導者との連携の必要性 - 第22回介護福祉学会抄録集 2015
- 4) 2) 前掲書
- 5) 厚生労働省社会・援護局長（社援第1111003）「社会福祉士実習指導者講習会及び介護福祉士実習指導者講

習会の実施について」

- 6) 畠山千春他：介護実習指導の在り方を探る - 実習指導者からのアンケート調査の結果を踏まえて - 共栄学園短期大学紀要 20 111-137 2004
- 7) 余田弘子他介護実習目標達成のための実習行動計画書の作成と課題 - 学生主体による作成を試みて - 介護福祉教育 15-1 55 2010.1
- 8) 中島朱美：会合福祉実習票の現状と課題（第2報） - 介護実習前段階をとおした実習終了後の学生の自己評価アンケートと施設評価の結果から見えてきたこと - 介護福祉教育 15-2 76 2010.8
- 9) 7) 前掲書